



2025年 3月29日 土

14:00 開演 13:30 開場

フェリスホール

(横浜市中区山手町52)

チケット 前売券 2500円

当日券 3000円

(全席自由)

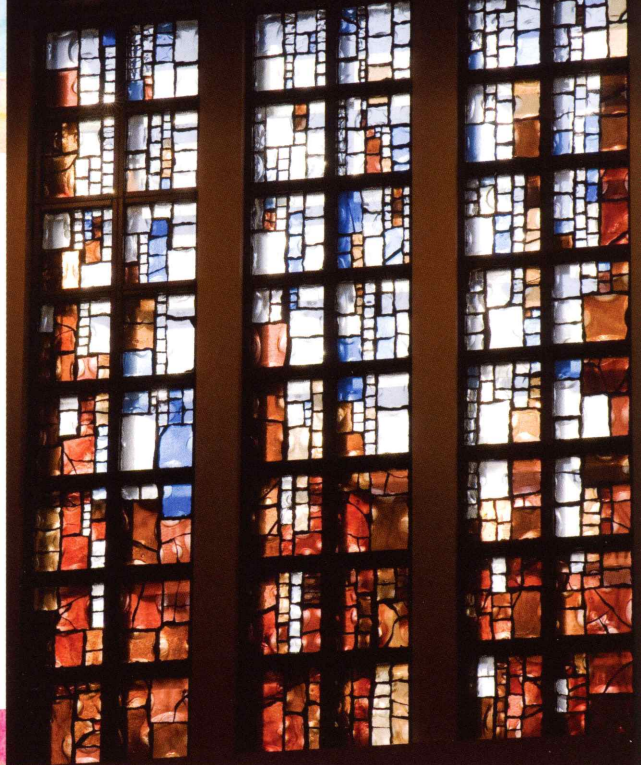
【お問合せ&お申込み】

Fグループ同窓会室 (木曜11:00~17:00)

Tel: 045-350-8930

mail: ferris@fgroup.jp

弦楽合奏の愉しみ 〜珠玉の名曲〜



W. A. モーツァルト：
アイネ・クライネ・ナハトムジーク

芥川 也寸志：
弦楽のための三楽章

A. ドヴォルザーク：
弦楽セレナーデ

Fgroup

Reunion Concert

出演：Fグループアンサンブル

Fグループアンサンブル

1990年、フェリス女学院短期大学音楽科弦楽器専攻の卒業生により、恩師故久保田良作氏を中心に結成。その後、音楽学部卒業生も加わり、1998年から故久山恵子氏を迎えて弦楽合奏オリジナル曲のレパートリーを増やしつづ演奏会を重ねる。2015年、結成25周年の節目の年に、フェリス女学院大学音楽学部名誉教授の故名倉淑子氏を迎え、多くの新しいメンバーも加わる。2019年6月より、指導およびコンサートミストレスとして千葉純子氏を迎える。現在、千葉純子・井上雅代両氏の指導のもと38回卒から68回卒の23名で活動している。

- vn. 千葉純子* 安藤由貴 伊郷彩花 稲葉百合子
内山和江 鶴田枝里 寺尾美紀 中川里奈
原田せな 平田仁美 平野京子 平山智子
藤林友 三宅彩乃 三宅麻里花 吉田牧子
va. 犬飼美奈 須之内千草 田村しおり 山田典子
vc. 井上雅代* 磯野由美 中野律子
cb. 渡辺恭一(賛助)

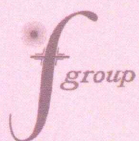
* 指導

※出演者は都合により、変更になる場合がございます。



主催：フェリス女学院大学音楽学部同窓会Fグループ

後援：フェリス女学院大学音楽学部



2025.3.29 (土) 14:00

フェリスホール

弦楽合奏の愉しみ
～珠玉の名曲～

Fグループアンサンブル

主催 フェリス女学院大学音楽学部同窓会Fグループ
後援 フェリス女学院大学音楽学部



ご 挨 拶

本日はお越しいただき、誠にありがとうございます。思い出の学び舎のホールで演奏できることに、幸せを感じております。

本日のプログラムは、弦楽合奏といえばこれ！といった親しみやすい名曲を取り揃えました。長年培ってきたFグループアンサンブルの音が皆様の心に残りますよう感謝の気持ちを込めて演奏いたします。

どうぞ最後までごゆっくりお楽しみください。

Fグループアンサンブル一同

program

W. A. モーツァルト :

Wolfgang Amadeus Mozart

セレナーデ第13番 ト長調 K. 525

「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」

Serenade Nr. 13 G-Dur, K. 525, "Eine kleine Nachtmusik"

芥川也寸志 :

Yasushi Akutagawa

弦楽のための三楽章 (トリプティック)

TRIPTYQUE for String Orchestra

~pause~

A. ドヴォルザーク :

Antonín Leopold Dvořák

弦楽セレナーデ ホ長調 作品22

Serenáda E-Dur pro smyčcové nástroje, op. 22

Program Note

モーツァルト アイネ・クライネ・ナハトムジーク ト長調 K.525

1756年に生まれたモーツァルトは幼い頃から音楽家の父の手ほどきを受け、5歳から作曲を始めるなど、幼い頃から才能を発揮していました。31歳のときに作曲されたこの曲は、前年にはオペラ「フィガロの結婚」、同時期に歌劇「ドン・ジョヴァンニ」を作曲していることから、傑作がたくさん生まれている時期に書かれたことが分かります。明快で優美な美しさに満ち溢れているこの曲は、モーツァルトの中で最も親しまれている曲です。

第1楽章 アレグロ

ユニゾンによる分散和音で力強く輝きのある第1主題が始まります。経過部では平和で愛らしい曲調になり、展開部は非常に短く第1主題の動機拡大した形で力強く結ばれます。

第2楽章 ロマンツェ

シンプルでありながら甘美なメロディから始まり、中間部では短調になり少し不安な雰囲気になります。転調を重ねて緊張感が高まった後、最初の主題が戻ってきてこの楽章は静かに終わります。

第3楽章 メヌエットとトリオ

明確で力強い3拍子のリズムの上に伸びやかなメロディから始まり、中間部は対照的に流麗にメロディが流れ、爽やかな歌が続きます。その後、最初のメヌエットに戻って楽章が結ばれます。

第4楽章 ロンド

駆け上げるような軽快な第1主題から始まり、経過部を過ぎると激しい転調が続き、躍動的に爽やかに展開していきます。コードでは第1主題の動機が華やかに繰り返され、全曲が力強く結ばれます。

(平山 智子)

芥川也寸志 弦楽の為の 3 楽章(トリプティーク)

芥川也寸志は 1925 年に東京で生まれた作曲家です。父は小説家の芥川龍之介、兄は俳優の芥川比呂志として知られています。若干 25 歳で「交響管弦楽のための音楽」を発表し、NHK の放送 25 周年記念管弦楽懸賞で特選入賞、その後、明快で力強い作風を武器に日本を代表する作曲家、指揮者として活躍しました。今年 2025 年は生誕 100 年にあたります。弦楽のためのトリプティークは 1953 年に作曲された弦楽合奏曲で「三連画」を意味しています。

第 1 楽章 アレグロ

曲の冒頭から全合奏で突進するような力強い主題が奏されます。中間部では抒情的なメロディーが現れたりしますが低音部の伴奏は変化せず楽章の最後まで勢いを保ちます。

第 2 楽章 子守歌 アンダンテ

作曲者の娘のために書かれた 5 拍子の子守歌でヴィオラで歌われます。1、3 楽章と対比をなす非常に叙情的な楽章で全パートに弱音器が指定されています。また、伴奏の和音を、パートを分けて上下交互に二声部に奏させるなど細かい管弦楽法が施されています。

第 3 楽章 プレスト

よく「祭囃子の太鼓のような」と表現される変拍子の主題が弱奏で始まります。この後、おどけたような三拍子の第 2 の主題を挟みながら進み、徐々に加速して曲は一度クライマックスを迎えます。ゲネラルパウゼの後にゆるやかな第 3 の主題が出てきます。再びテンポは冒頭の数度になり、もう一度三つの主題が圧縮された形で現れた後、最後は冒頭の主題を力強く奏して終わります。

(稲葉 百合子)

ドヴォルザーク 弦楽セレナーデ ホ長調 op.22

19 世紀後半のチェコを代表する作曲家アントニン・ドヴォルザーク (1841~1904)、その第一歩は、若き日に毎年オーストリア政府の奨学金に申し込むため曲を提出していたことに始まります。プラハからのドヴォルザークという名の申請者の作品を見てその才能に驚いた音楽部門の審査員の中にはブラームスがいました。気質も生き方も全く違うブラームスとドヴォルザークですが、当時主流であった標題音楽ではなく、古典的な形式による純音楽を追求する音楽観において一致していました。

この弦楽セレナーデは、奨学金を獲得して音楽界における最初の成功に喜びながら次々と曲を作った時期である 1875 年 5 月の 12 日間で書き上げられ(弦楽セレナーデで同じく筆頭に挙がるチャイコフスキーは 1 歳年上ですが、実はドヴォルザークの方が 5 年先に作曲しています)、翌年プラハでの初演は大成功となりました。

のちに全ヨーロッパからアメリカまで作曲家としての名声を広める門出とも言えるこの時期の青年ドヴォルザークの、前途洋々とした憧れや明るい気分を反映した、優雅で牧歌的な作風の美しいこの作品は、主題がカノン風に現れる特徴を持ち、主に三部形式による 5 つの楽章から成っています。

第 1 楽章 モデラート

第 2 ヴァイオリンの穏やかな主題をチェロ、第 1 ヴァイオリンと受け継いでいきます。中間部、内声の弾んだリズム。二つの主題が重なりつつ展開し、最初の主題に戻って静かに楽章が結ばれます。

第 2 楽章 ワルツのテンポで

第 1 ヴァイオリンの流れるようなワルツ、途中マズルカ的なリズムを挟みます。トリオは伸びやかな主題が受け継がれ、高揚し、再び静まってワルツへ戻り、アレグロで締めくくられます。

第 3 楽章 “スケルツォ” ヴィヴァーチェ

チェロとヴァイオリンの生き生きとした呼応から始まり各パートへカノン風に引き継がれます。中低弦の動きに乗ったゆったりと情緒的な中間部。スケルツォ、そしてまた短くトリオが現れ、コーダでスケルツォ主題が加速され風のように終わります。

第 4 楽章 ラルゲット

深い情緒をたたえた抒情的な美しい緩徐楽章。第 1 ヴァイオリンの優しい主題は第 2 楽章のトリオを想起させながら進みます。中間部では少し速めたスタカート動きの後、主部の主題に戻って盛り上がり、やがてピアノシシモの中に楽章を閉じます。

第 5 楽章 “フィナーレ” アレグロ・ヴィヴァーチェ

ロンド・ソナタ形式風の活気ある終楽章。力強い音型が高弦から中低弦へと受け渡され、掛け合いながら進みます。展開部でチェロに第 4 楽章の主題が現れます。再現部の後には第 1 楽章冒頭の穏やかな主題が回想された後、プレストの颯爽としたコーダによって全曲が終結します。

(平野 京子)

Fグループアンサンブル

1990年、フェリス女学院短期大学音楽科弦楽専攻の卒業生により、恩師故久保田良作氏を中心に結成。その後音楽学部卒業生も加わり1998年から故久山恵子氏を迎えて弦楽合奏オリジナル曲のレパートリーを増やしつつ演奏会を重ねる。2015年、結成25周年の節目の年にフェリス女学院大学音楽学部名誉教授故名倉淑子氏を迎え、多くの新しいメンバーも加わる。2019年6月より、指導およびコンサート・ミストレスとして千葉純子氏を迎え、新たなスタートを踏み出す。現在、38回生から74回生の24名で活動している。



出演メンバー

ヴァイオリン

千葉純子(コンサートミストレス) 安藤由貴(59回) 伊郷彩花(56回)
稲葉百合子 内山和江(39回) 鶴田枝里(54回) 寺尾美紀(38回)
中川里奈(48回) 原田せな(63回) 平田仁美 平野京子(57回)
平山智子(55回) 藤林友(56回) 三宅彩乃(63回) 三宅麻里花(68回)
吉田牧子(39回)

ヴィオラ

犬飼美奈(48回) 須之内千草(59回) 田村しおり(50回) 山田典子(55回)

チェロ

井上雅代 伊藤温佳(74回) 磯野由美(57回)

コントラバス

渡辺恭一(賛助)

※出演者は都合により、変更になる場合がございます。



千葉 純子 ヴァイオリン Junko CHIBA, Violin

桐朋女子高等学校音楽科、ジュリアード音楽院卒業。在学中アスペン音楽祭に全額給費奨学生とし毎夏参加。N.Y・アーティストインターナショナルコンペティションで優勝、カーネギーリサイタルホールでニューヨークデビュー。ティボール・ヴァルガ国際ヴァイオリン・コンクール入賞、タイペイ国際音楽コンクール最高位、フォーバルスカラシップストラディヴァリウスコンクール入賞、イタリアのキジアーナ音楽院にて名誉ディプロマを受賞、大垣音楽祭で最優秀新人賞受賞、また明治安田生命クオリティオブライフ文化財団助成奨学生となる。国際交流基金の派遣でマダガスカル、レバノン、チュニジアを訪れ、リサイタルを開く。ソリストとしてブラハ放送交響楽団、ブラハ室内管弦楽団、バイヤール室内管弦楽団、ドイツ・パッサハザリステン、ウィーン・ヴィルトゥオーゾ、タイペイ交響楽団、NHK交響楽団のトップメンバーによる室内合奏団などと共演。NHK-FM、BS放送などにも出演。また、ヨーロッパ各地でリサイタルを開く。

CDは、カメラータ・トウキョウより「レスピーギ：ヴァイオリン・ソナタ」、「シューマン：ヴァイオリン・ソナタ」、アウローラ・クラシカルより「メンデルスゾーン：ヴァイオリン・ソナタ」、「モーツァルト：ヴァイオリン協奏曲全集」、「テンポ・ディ・メヌエット〜ヴァイオリン名曲集」を、またビクターより「ヴァイオリン名曲の花束」をリリース。深い音楽性とそれを確固とさせる優れたテクニックによる演奏について、各方面より高い評価を得ている。現在、ソロ、室内楽のほか、紀尾井ホール室内管弦楽団、チェンバー・ソロイストKANAGAWA、ヴィルトゥオーゾ横浜など、幅広く活躍している。フェリス女学院大学音楽学部非常勤講師、洗足学園音楽大学非常勤講師。



井上雅代 チェロ Masayo INOUE, Violoncello

東京藝術大学付属高校を経て、東京藝術大学卒業。鎌倉学生コンクールにて第1位、ならびに教育委員会賞を受賞。東京文化会館推薦コンサートに出演。沖縄ムーンビーチ、長野アスペン、ジュネーブ国際音楽祭に参加。日中国交30周年記念行事にて招待演奏を行う。ピアノ教育連盟トリオ部門入賞。神奈川県及び横浜市の新人演奏会に出演。これまでに桐朋学園嘱託演奏員、桐朋学園音楽教室チェロ講師、北鎌倉女子学園音楽学部非常勤講師を務める。邦人作品初演も多い。

現在、フェリス女学院大学音楽学部非常勤講師。洗足学園音楽大学非常勤講師。横浜音楽文化協会会員。ヴィルトゥオーゾ横浜メンバー。